

平成29年 2月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成29年2月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月比では売上高で12ポイント、収益状況16ポイント、景況感が2ポイントと全ての項目で悪化した。

前月比で比較しても売上高10ポイント、収益状況2ポイント、景況感2ポイントと悪化している。

先月に引き続き、自動車部品関連や半導体関連の受注は好調に推移しているが、人手不足に加え原油価格の上昇や原材料の値上がり等がコスト増となり収益確保には結びつかず、厳しい経営状況が続いている。

また、訪日旅行者によるインバウンド消費の縮小により観光関連業種の景気悪化、寒波や天候不順の影響により青果物等の価格が上昇し消費者マインドも低下していることから、山梨県内の景況感全体が低下傾向にある。

年度末を控え、生産調整による受注増や春の行楽シーズンに期待したいが、経営者の高齢化に伴う廃業や専門職の不足が多くの業種で顕著となっている。人材不足は結果的に後継者不足を招き、廃業のリスクを高めてしまい地域経済の停滞に繋がる。廃業が創業の倍に近い山梨県においては、企業経営を将来にわたり安定的に続けるため後継者育成や事業承継、労働条件等を改善するための支援や施策が求められている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調。ホテル・レストラン、居酒屋向けの生食材が好調のため、全体の売上は前年同月比103%となったが、主力であるギフト製品が不振のため利益面は厳しい。
食料品（洋菓子製造）	消費低迷から量販店、専門店向けの自社製品や輸出が不振、OEMは焼き菓子が好調のため、全体の売上は前年同月比97%。
食料品（菓子）	菓子の原料である砂糖が3円/kgの値上げとなり、今後、販売価格に転嫁できるか懸念。
繊維・同製品（織物）	業界が全体的に低調。先月に引き続き裏地、傘地は受注が減少。これまで好調だったインテリア関係も低調。
繊維・同製品（アパレル）	アパレル業界全体的に売上が減少。
木材・木製品製造	公共工事の発注により売上は伸長したが、一般住宅用のプレカット加工は低調。
窯業・土石（砂利）	中部横断自動車道やリニア中央新幹線工事に伴い峡南地域の荷動きは良い、甲府地区の動きは年度末により需要が増加はしているが、業界全体では低迷しており景気回復にはほど遠い。

窯業・土石（山採石）	1月に入って前年比の10%の伸びとなった（特殊製品の出荷が伸びを押し上げたため。主力製品は横ばい）。しかし、累計比では昨年度並みであり、景気は冷え込んだまま回復感はまったく感じられない。
鉄鋼・金属①	昨年より全体的に忙しくなっているが、利益が上がらない。
鉄鋼・金属②	前年比は悪化だが、前月からは若干改善。底打ち感はあるが、先行きは不透明。
一般機器	半導体関連は上昇傾向にあり、製品・設備等の受注が増加しているが、原材料・燃料価格等高騰もあり、厳しい状況は続いている。また、人手不足や後継者問題等により廃業する企業が増加傾向。
電気機器①	平成28年度の官公庁からの発注が少ないため、3月末の仕事量は減少。
電気機器②	先月に引き続き半導体関連の受注は増加、年度末の為、自動車関連の受注増。

● 非製造業

卸売（紙製品）	アメリカ合衆国と中国の景気上昇に伴い古紙原料が値上がりし、国内製紙メーカーの生産には窮地の状態。
卸売（ジュエリー）	国内流通は、以前として悪い。
小売（青果）	大型の寒波等の天候不順により野菜や果実の入荷量の減少により販売価格が値上がりしている。
小売（食肉）	前年に比べ、輸入の鶏肉の価格が高騰しているため、国産の鶏肉も価格が上昇。そのため、安価な加工食材と利益が見込めた鶏肉だが、今後は厳しくなる。
小売（電機製品）	2月の売上は、地域店は大幅前年ダウンだが、量販店は横這い。昨年まで好調だった太陽光関連の受注が激減。
宿泊業①	2月は一年の中で最も売上が落ちる閑散期だが、今年は中国人観光客の失速が加わり売上は5%減となり、インバウンドの宿泊料金を下げざるを得ない状況。
美容業	年度末に向け美容院の廃業が多い。山梨県の人口の減少、固定客の高齢化に伴う売上の減少、県外資本の低料金店舗の増加等により事業継続が厳しい。
警備業	在籍警備員数以上の受注があるが、警備員不足のため要望に応えられない状況。また、売上額の上昇に伴い、社会保険等の会社負担も増加しており実質的な利益率は低下。
建設業（総合）	2月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は2%、請負金額は46%減少。2月までの累計では、件数では2%、請負金額では4%増加。

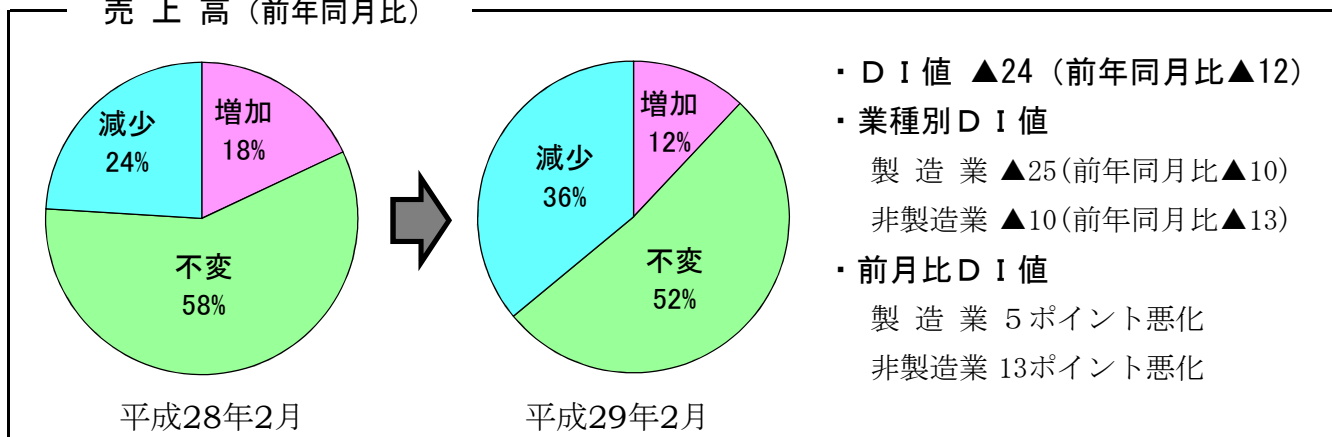
建設業（型枠）	2月は平年並みの仕事量を確保でき3月も引き続き現状維持できそうだが、4月以降は企業間で仕事量に格差がでてくる。資材のコンパネやガソリン代等が値上がりしているため、工事単価が上昇しないと経営がますます厳しくなる。
建設業（鉄構）	県内の物件は少なく、首都圏に依存する傾向が続いている。
設備工事（電気工事）	業況は先行き不透明。経営者の高齢化による退会や廃業が多かったが、新たに1社が組合に加入。
設備工事（管設備）	公共工事の前倒しの影響により年末の仕事量が減少、収益も悪化。配管工等の職人の高齢化や後継者不足による廃業等、人材育成及び事業承継ができない状況。
運輸（タクシー）	車両台数が昨年比1台減に加え、夜間の利用客も減少しているため、売上が減少。
運輸（バス）	昨年に比べ外国人旅行客の仕事が激減。
運輸（トラック）	天候不順による農作物の出荷が落ち込んだ影響で売上が減少。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

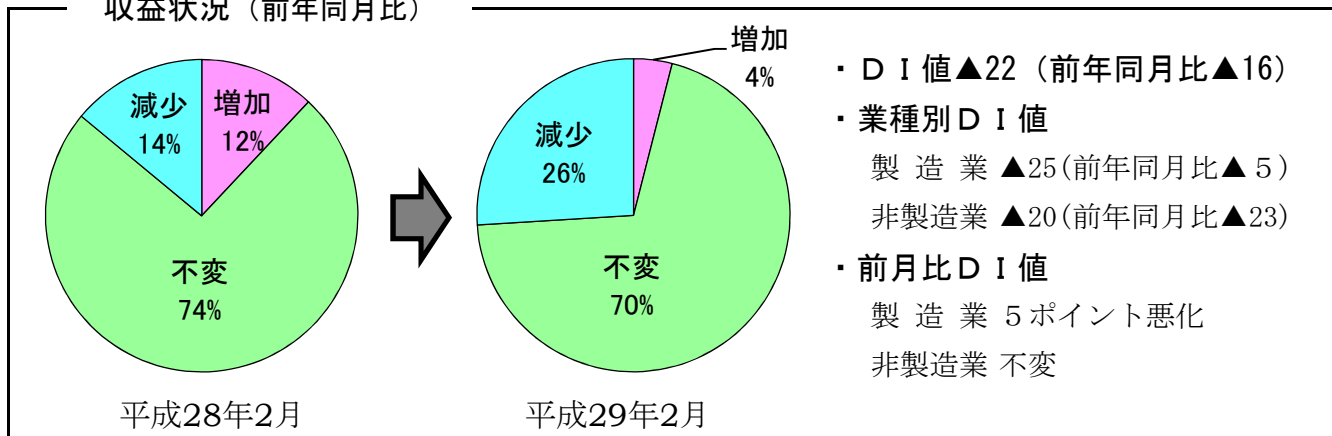
対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2016/2	2017/1	2017/2	2016/2	2017/1	2017/2	2016/2	2017/1	2017/2
売上高	-15	-20	-25	-10	-10	-23	-12	-14	-24
収益状況	-20	-20	-25	3	-20	-20	-6	-20	-22
景況感	-25	-20	-20	-10	-13	-17	-16	-16	-18

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

